

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年7月12日
【四半期会計期間】	第14期第2四半期（自平成25年3月1日至平成25年5月31日）
【会社名】	株式会社エスプール
【英訳名】	S-Pool, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 浦上 壮平
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋二丁目15番3号
【電話番号】	03(3517)6633（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部担当 佐藤 英朗
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋二丁目15番3号
【電話番号】	03(3517)6633（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部担当 佐藤 英朗
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第13期 第2四半期 連結累計期間	第14期 第2四半期 連結累計期間	第13期
会計期間	自平成23年12月1日 至平成24年5月31日	自平成24年12月1日 至平成25年5月31日	自平成23年12月1日 至平成24年11月30日
売上高 (千円)	2,551,544	2,600,669	4,941,644
経常利益 (千円)	17,540	52,890	29,667
四半期純利益又は当期純損失() (千円)	5,617	44,129	30,793
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	5,617	44,732	30,793
純資産額 (千円)	179,438	187,759	143,027
総資産額 (千円)	1,206,705	1,374,267	1,291,411
1株当たり四半期純利益金額又は当期純損失金額() (円)	2.17	17.08	11.92
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	14.8	13.6	11.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	64,578	85,678	45,794
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	13,421	37,887	12,089
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	160,683	12,930	184,436
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	518,524	594,590	559,728

回次	第13期 第2四半期 連結会計期間	第14期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年3月1日 至平成24年5月31日	自平成25年3月1日 至平成25年5月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	3.99	18.28

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第13期第2四半期連結累計期間及び第14期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。第13期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、また、当期純損失であるため、記載しておりません。
4. 当社は、平成24年12月1日付けで普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。第13期第2四半期連結累計期間及び第13期第2四半期連結会計期間並びに第13期の1株当たり四半期純利益金額又は当期純損失金額は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

（ビジネスソリューション事業）

事業を休止していた連結子会社である株式会社エスプール・マーケティングは、平成25年3月1日付けにて株式会社エスプールエコロジーに社名を変更し、新たに除染業務を開始いたしました。

なお、連結子会社である株式会社わーくはびねす農園は、平成25年2月1日付けにて株式会社エスプールプラスに社名を変更しております。

（人材ソリューション事業）

主要な関係会社について異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、新政権発足後の円高修正の流れや、デフレ脱却に向けた様々な経済政策、日銀による異次元金融緩和が打ち出されたこと等により、企業収益環境が徐々に改善してきております。中国や欧州の景気減退懸念等の不安材料は依然として存在しておりますが、国内景気は持ち直しの動きが続いております。雇用情勢についても、このような国内景気の緩やかな回復を背景に改善傾向にあり、厚生労働省が発表した平成25年5月の有効求人倍率は0.90倍で、平成20年6月以来の高水準となっております。

このような環境の下、当社グループは、事業拡大に向けた様々な施策を行って参りました。中でも、ビジネスソリューション事業の障がい者雇用支援サービスは、障がい者の法定雇用率が引き上げられたこと等により、企業の障がい者雇用に対する意識が高まっており、計画を上回る売上を達成することができました。一方、人材ソリューション事業においては、好調な人材派遣サービスの需要に対応するため、東京都内の採用拠点を従来の1拠点から4拠点到増やし採用力の強化に努めて参りました。しかし、採用市場における逼迫感は強く、また、職種によっては競合他社との競争が激しく、稼働数はほぼ前年同期並みとなりました。

損益面においては、売上の増加に加え、ビジネスソリューション事業及び人材ソリューション事業の両事業セグメントの売上総利益率が改善したため、積極的拡大のための人件費を中心とした販売費及び一般管理費の増加を補うことができました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、2,600,669千円（前年同四半期比1.9%増）、営業利益は59,687千円（前年同四半期比149.5%増）、経常利益は52,890千円（前年同四半期比201.5%増）、四半期純利益は44,129千円（前年同四半期比685.6%増）と、増収増益を達成することができました。

当第2四半期連結累計期間のセグメント業績（セグメント間内部取引消去前）は以下のとおりであります。

ビジネスソリューション事業

株式会社エスプールにてロジスティクスアウトソーシング、キャンペーンアウトソーシング等のサービスを、また、株式会社エスプールプラス（旧株式会社わーくはびねす農園）にて障がい者雇用支援サービス及び付随する農園運営事業を提供しています。

当第2四半期連結累計期間においては、障がい者雇用支援サービスにおいて展開している農園への参入件数が大幅に増加しました。ロジスティクスアウトソーシング、キャンペーンアウトソーシングの売上についてはほぼ前年同四半期並みに推移しました。一方、損益面においては、相対的に利益率の高い障がい者雇用支援サービスの売上が増加したこと、及びロジスティクスアウトソーシングサービスの売上総利益率が生産性の向上等により改善したため、当セグメントの利益率が大きく改善しております。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は941,311千円（前年同四半期比9.3%増）、営業利益は90,139千円（前年同四半期比116.9%増）となりました。

人材ソリューション事業

株式会社エスプールヒューマンソリューションズにおいて、人材派遣、人材紹介等、人材に係わるサービスを提供しています。

当第2四半期連結累計期間においては、主力のコールセンター業務及び携帯電話販売業務の引き合いがともに好調に推移しました。採用市場は逼迫しておりますが、採用拠点の増加等の採用力強化によって、ほぼ前年同四半期並みの売上を確保しました。しかし、競合他社との競争が激しいクレジットカード開拓業務の売上が伸び悩んだほか、派遣法改正の影響から物流企業向けの人材派遣を一部手控えたこともあって、セグメント合計では売上が減少しました。

損益面においては、受注単価が比較的安定的に推移し、売上総利益率は改善しました。しかし、採用拠点増加に伴う人員増加や将来の業務拡大に備えた営業及び管理人員の積極採用、逼迫する採用市場への対応等により、人件費やスタッフ募集費用を中心に販売費及び一般管理費が増加しました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,727,117千円（前年同四半期比1.1%減）、営業利益は144,907千円（前年同四半期比7.9%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

資産

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末から82,856千円増加(6.4%増)し、1,374,267千円となりました。当第2四半期連結累計期間においては、現金及び預金増加等により流動資産が21,165千円増加しました。また、農園施設の増設や拠点開設に伴う有形固定資産の取得、敷金及び保証金の差し入れ等により固定資産が61,690千円増加しております。

負債

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末から38,123千円増加(3.3%増)し、1,186,507千円となりました。当第2四半期連結累計期間においては、未払給与の増加によって流動負債が45,431千円増加しました。一方、社債の償還等により固定負債は7,308千円減少しております。

純資産

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末から44,732千円増加(31.3%増)し、187,759千円となりました。これは、主に四半期純利益44,129千円を計上したためであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物は34,861千円増加し、594,590千円となりました。各活動によるキャッシュ・フローの状況と要因は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期比150,257千円増加の85,678千円の収入(前年同四半期は64,578千円の支出)となりました。これは、税金等調整前四半期純利益が前年同四半期と比較して37,699千円増加し52,890千円であったことに加え、賞与引当金が31,049千円増加したことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、37,887千円の支出(前年同四半期は13,421千円の収入)となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出31,465千円、敷金及び保証金の差入による支出12,612千円、定期預金の払戻による収入19,000千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、12,930千円の支出(前年同四半期は160,683千円の収入)となりました。収入及び支出の内訳は、短期借入金の減少16,802千円、長期借入れによる収入50,000千円、長期借入金の返済による支出26,128千円、社債の定期償還による支出20,000千円であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、従業員数の著しい変動はありません。

(7) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売の実績の著しい変動はありません。

(8) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,032,000
計	10,032,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年7月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,583,400	2,583,400	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株で あります。
計	2,583,400	2,583,400	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年5月31日	-	2,583,400	-	150,000	-	-

(6) 【大株主の状況】

平成25年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
浦上 壮平	東京都江東区	572,600	22.16
吉村 慎吾	東京都世田谷区	531,700	20.58
エスプール従業員持株会	東京都中央区日本橋2-15-3	258,200	9.99
佐藤 英朗	東京都江東区	110,500	4.27
赤浦 徹	東京都港区	102,400	3.96
白石 徳生	東京都八王子市	81,000	3.13
野村証券株式会社野村ネット&コー ル	東京都千代田区大手町2-2-2	74,300	2.87
中村 勝人	東京都足立区	63,300	2.45
竹原 相光	東京都世田谷区	61,700	2.38
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1-2-1	36,000	1.39
計	-	1,891,700	73.22

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,583,100	25,831	-
単元未満株式	普通株式 300	-	-
発行済株式総数	2,583,400	-	-
総株主の議決権	-	25,831	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年12月1日から平成25年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	578,728	594,590
受取手形及び売掛金	524,359	525,745
商品	2,925	6,095
仕掛品	3,297	181
その他	83,113	88,629
貸倒引当金	7,991	9,643
流動資産合計	1,184,432	1,205,598
固定資産		
有形固定資産	29,135	73,927
無形固定資産	6,087	10,889
投資その他の資産		
その他	101,034	112,887
貸倒引当金	29,278	29,035
投資その他の資産合計	71,756	83,852
固定資産合計	106,978	168,669
資産合計	1,291,411	1,374,267
負債の部		
流動負債		
買掛金	80,283	57,015
短期借入金	483,400	466,598
1年内返済予定の長期借入金	40,000	53,976
1年内償還予定の社債	42,796	40,000
未払法人税等	11,631	14,468
未払費用	212,339	246,309
賞与引当金	6,117	37,167
その他	164,057	170,522
流動負債合計	1,040,626	1,086,057
固定負債		
社債	20,000	-
長期借入金	87,758	100,450
固定負債合計	107,758	100,450
負債合計	1,148,384	1,186,507
純資産の部		
株主資本		
資本金	150,000	150,000
利益剰余金	7,455	36,673
株主資本合計	142,544	186,673
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	-	602
その他の包括利益累計額合計	-	602
新株予約権	482	482
純資産合計	143,027	187,759
負債純資産合計	1,291,411	1,374,267

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年5月31日)
売上高	2,551,544	2,600,669
売上原価	1,964,990	1,916,942
売上総利益	586,553	683,727
販売費及び一般管理費	562,626	624,039
営業利益	23,927	59,687
営業外収益		
受取利息	64	109
持分法による投資利益	561	976
法人税等還付加算金	-	283
その他	57	76
営業外収益合計	682	1,446
営業外費用		
支払利息	5,420	6,999
社債利息	948	543
その他	700	702
営業外費用合計	7,069	8,244
経常利益	17,540	52,890
特別損失		
固定資産除却損	2,350	-
特別損失合計	2,350	-
税金等調整前四半期純利益	15,190	52,890
法人税、住民税及び事業税	8,738	11,167
法人税等調整額	834	2,406
法人税等合計	9,572	8,760
少数株主損益調整前四半期純利益	5,617	44,129
四半期純利益	5,617	44,129

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	5,617	44,129
その他の包括利益		
持分法適用会社に対する持分相当額	-	602
その他の包括利益合計	-	602
四半期包括利益	5,617	44,732
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,617	44,732
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	15,190	52,890
減価償却費	5,354	6,948
貸倒引当金の増減額(は減少)	13,795	1,408
賞与引当金の増減額(は減少)	20,836	31,049
受取利息及び受取配当金	64	109
支払利息及び社債利息	6,369	7,542
持分法による投資損益(は益)	561	976
固定資産除却損	2,350	-
売上債権の増減額(は増加)	25,376	1,386
たな卸資産の増減額(は増加)	779	54
仕入債務の増減額(は減少)	26,706	23,268
未払費用の増減額(は減少)	14,766	34,007
その他	18,530	16,238
小計	22,888	91,813
利息及び配当金の受取額	64	109
利息の支払額	6,941	7,758
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	34,812	1,514
営業活動によるキャッシュ・フロー	64,578	85,678
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	5,371	31,465
無形固定資産の取得による支出	-	6,250
定期預金の払戻による収入	20,000	19,000
関係会社株式の取得による支出	-	2,028
敷金及び保証金の差入による支出	3,359	12,612
敷金及び保証金の回収による収入	2,152	4,004
貸付けによる支出	-	8,680
貸付金の回収による収入	-	144
投資活動によるキャッシュ・フロー	13,421	37,887
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	82,980	16,802
長期借入れによる収入	100,000	50,000
長期借入金の返済による支出	2,778	26,128
社債の償還による支出	20,000	20,000
その他	481	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	160,683	12,930
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	109,526	34,861
現金及び現金同等物の期首残高	408,997	559,728
現金及び現金同等物の四半期末残高	518,524	594,590

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

持分法適用の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、重要性が増したS-POOL BANGKOK CO.,LTD. を持分法の適用の範囲に含めております。

【会計方針の変更】

減価償却方法の変更

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年12月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

【会計上の見積りの変更】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費の主なもの

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年5月31日)
役員報酬	37,760千円	35,800千円
給与手当	142,727	162,620
賞与引当金繰入額	30,478	32,770
雑給	41,491	63,297
法定福利費	28,120	37,743
地代家賃	38,640	41,988
減価償却費	5,265	5,531
貸倒引当金繰入額	13,795	1,408

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年5月31日)
現金及び預金	547,524千円	594,590千円
小計	547,524	594,590
預入期間が3ヶ月超の定期預金	29,000	-
現金及び現金同等物	518,524	594,590

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年12月1日至平成24年5月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年12月1日至平成25年5月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年12月1日至平成24年5月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ビジネスソ リューション 事業	人材ソ リューション 事業	計			
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	848,276	1,694,980	2,543,256	8,287	-	2,551,544
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	12,738	51,878	64,617	-	64,617	-
計	861,014	1,746,859	2,607,873	8,287	64,617	2,551,544
セグメント利益又は損失()	41,564	157,387	198,952	3,062	171,963	23,927

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、モバイル・マーケティング事業であります。

2. セグメント利益の調整額 171,963千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用 172,390千円及びセグメント間取引消去427千円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年12月1日至平成25年5月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	ビジネスソ リューション 事業	人材ソリュー ション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	933,390	1,667,278	2,600,669	-	2,600,669
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	7,921	59,838	67,759	67,759	-
計	941,311	1,727,117	2,668,428	67,759	2,600,669
セグメント利益	90,139	144,907	235,046	175,358	59,687

(注)1. セグメント利益の調整額 175,358千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用 176,531千円及びセグメント間取引消去1,172千円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 前連結会計年度において「その他」の区分に含めていたモバイル・マーケティング事業は、前連結会計年度中にその事業を廃止しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額	2円17銭	17円8銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	5,617	44,129
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	5,617	44,129
普通株式の期中平均株式数(株)	2,583,400	2,583,400

- (注) 1. 当第2四半期連結累計期間及び前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
2. 当社は、平成24年12月1日付けで普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。前第2四半期連結累計期間の1株当たり四半期純利益金額については、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年7月9日

株式会社エスプール
取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大木智博印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 土居一彦印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エスプールの平成24年12月1日から平成25年11月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年3月1日から平成25年5月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年12月1日から平成25年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エスプール及び連結子会社の平成25年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。